

9:00~10:30

シンポジウム2：整容を考慮した上肢再建のこだわり

座長：松田 健（新潟大学 形成外科）
小野 真平（日本医科大学 形成外科）

SY2-1 足を用いた手の再建

Hand reconstruction using the foot

今泉 督

沖縄県立中部病院 形成外科

手の組織欠損における“Reconstruction”は手特有の形態を再現し可能な限り損傷手を受傷前の状態に機能・整容的に回復させることである。この“Reconstruction”と“Coverage”、『ドナーの犠牲』そして『再獲得しうる機能』のバランスは人それぞれである。“Coverage”より“Reconstruction”を重視する症例では足からの組織移植を多用している。

SY2-2 上肢再建におけるaesthetic mind -free flap編-

Aesthetic mind in upper limb reconstruction -free flap

高木 信介¹, 西村 怜¹, 安田 知弘², 川崎 恵吉², 稲垣 克記², 門松 香一¹

¹昭和大学 医学部形成外科学講座, ²昭和大学医学部整形外科学講座

上肢再建におけるaesthetic mindとは整容と昨日の両立、さらにドナーサイトへの配慮した治療を行うことを主眼に置くことである。今回われわれは、free flapによる上肢再建に対するaesthetic mindを持った治療戦略について報告する。

SY2-3 上肢疾患におけるPerforator flapの使用経験から考える整容的再建

Perforator Flap for Aesthetic Treatment in the Upper Extremity

岡田 充弘, 斉藤 公亮, 宮島 佑介, 中村 博亮

大阪公立大学大学院 医学研究科整形外科学

穿通枝皮弁が本邦で発表されて以降、穿通枝の局在について研究が行われ、350本以上の穿通枝の存在が確認された。上肢疾患45症例に対し、perforator flapを用い治療を行った。様々な血管茎を利用することで、局所の創部のみで上肢疾患の治療が可能であった。特に、移植部位近傍に穿通枝がある場合は、皮切も大きくせずに治療することができた。また、遊離穿通枝皮弁は、非露出部を選択することで、整容的な再建が可能であった。

SY2-4 手掌部のmini flapを用いた整容的かつ機能的再建

Aesthetic and functional reconstruction of hand defect using the mini flap from palmar region

宇佐美 聡, 稲見 浩平, 河原 三四郎, 武光 真志, 石田 直也

東京手の外科・スポーツ医学研究所 高月整形外科病院

指腹部～手掌部の皮膚は厚い表皮と真皮を有し、膠原線維と知覚終末が豊富である点が特徴的である。同部位の欠損に対し手掌部からの皮弁として、有茎thenar flap、reverse thenar perforator flap、radial midpalmar island flapなどが挙げられ、遊離ではSPBRA flap、hypothenar flap、ulnar parametacarpal flapなどを用いた再建が挙げられる。これらを用いた整容的かつ機能的な再建について言及する。

SY2-5 上肢再建におけるthin flapとdonorの選択と整容性

Choice and conformity of thin flap and donor in upper limb reconstruction.

成島 三長, 今井 翔一, 三井 康平, 粗野 可南子, 石浦 良平

三重大学 医学部 形成外科

Thin flapはSCIAを血管茎とした皮弁として1979年Aclandらが報告した。皮弁を鼠蹊部の外側上前腸骨棘付近にデザインされた。しかし血管の走行異常が多く存在し、栄養血管に脂肪組織をつけない拳上は攣縮の危険性があるとされてきた。しかし近年のスーパーマイクロ技術の進歩により克服が可能となった。これらの技術的なコツと合併症の回避と発生時のトラブルシューティングについて報告する。

SY2-6 骨軟部組織延長とマイクロサージャリー融合手術による手指再建への挑戦

Operative procedure for finger reconstruction using microsurgery and tissue lengthening

五谷 寛之^{1,2}, 田中 祥貴¹, 八木 寛久¹, 岡本 幸太郎¹, 宮島 佑介¹

¹大阪掖済会病院 手外科外傷マイクロサージャリーセンター, ²静岡理工科大学手外科微小外科医工学

マイクロサージャリー手技を用いた手指再建に骨軟部組織延長を併用している。この両手技併用手術を黒島は手の造形手術と名づけた。今回指骨における骨移送や末節の骨延長、移植皮弁と骨の同時延長、第1指間解離などについて述べる。

さらに、演者が作成した手指拘縮解離やROM訓練用途のGlobal Hnige Fixatorについての実際的な活用方法を述べる。